

# 岐阜農林事務所の普及活動状況

平成30年8月31日現在

## 今月の重点活動

### ■GAP推進 J-GAP認証取得に向け支援

8月1日、J-GAP認証取得を目指している各務原市の農事組合法人において、GAPアドバイザー派遣事業を活用した支援が行われた。

J A岐阜中央会と農業普及課が立ち会い、当事業により派遣されたGAP総合研究所アドバイザーから、長時間にわたり点検を受けた結果、複数項目について指摘事項があったものの、その多くはすぐに改善が可能な事項であり、10月に予定されている審査においては、J-GAP取得は十分可能な状況であるとの評価が得られた。

農業普及課では、今後も岐阜県GAP確認制度をはじめ、農業経営者のニーズに合ったGAPの取り組みを支援していく。  
(地域支援第二係・野口裕史)



【作業場の点検風景】

## 多様な担い手づくり

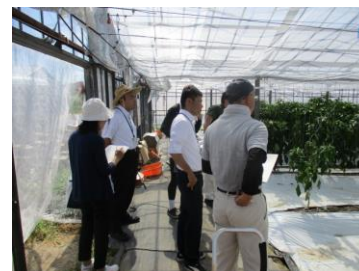
### ■新規就農者 就農状況現地確認

8月8日～10日、いちごなど施設野菜、露地野菜等により、岐阜市内で新規就農した17名に対し、岐阜市役所、J Aぎふ、農林事務所が連携して、就農後の経営状況について現地確認を行った。

就農後の経営が不安定な新規就農者を年2回、定期的に訪問し、現在の経営状況及び栽培技術や資金・経営規模拡大などに関する課題を聞き取りし、新規就農者の課題解決活動に応じた支援を、関係機関連携のもと実施している。

農業普及課では、関係機関と連携しながら、経営安定と営農定着に向けて、今後も継続して支援していく。

(地域支援第一係・小島康平、園芸産地支援第一係・高橋幸蔵、三和浩一、川部 知)



【現地確認の様子】

### ■いちご高設栽培生産者 トークセッション開催

8月3日、J Aぎふアグリパーク鈴ヶ坂において、J Aぎふと農業普及課が連携して、高設栽培農家を対象とした「いちごトークセッション」を開催した。参加者は、3グループに分かれ、高設栽培で多収を目指すための栽培管理について、自身の取り組み、考え等を織り交ぜながら活発な討論を行った。

多くの若手生産者は高設栽培の導入に多額の初期投資をしているため、収益向上が必須となっている。今回のトークセッションが、各生産者の栽培技術や意識向上に寄与することを期待するとともに、農業普及課では、全員が5t/10a以上の単収を実現できるよう、引き続き支援していく予定である。  
(園芸産地支援第一係・菊井裕人、三和浩一)

## 売れるブランドづくり

### ■水田農業担い手 今後の水稲経営に向けて研究交流会開催

8月6日に、J Aぎふ水田農業担い手連絡協議会が研究交流会を開催し、当管内の水田農業の担い手約300名が参加するなか、新たな米政策について講演や情報提供が行われた。

講師の吉田氏から、「新米政策の課題と今後の展望」と題する講演があり、J A全農岐阜から、「米穀情勢について」、J Aぎふから、「第2期複数年契約に向けて」、(農)もとすファームから、「組織力向上に向けた取り組みについて」など、情報提供が行われた。参加した生産



【研究交流会の様子】

者からは、「今後の経営に参考になった」との声があり、好評であった。

(地域支援第一係・小島康平)

### ■水稲種子 採種ほ抜き穂作業実施

羽島市水稲種子採種組合は、8月23日に、羽島市内3地区(足近、小熊、桑原)の種子生産ほ場において、出穂期における抜き穂作業を行った。

同組合は、ハツシモ岐阜SLの種子生産を担っており、抜き穂作業は、ハツシモ岐阜SLとは異なる異形の稲株や雑草を除去する作業で、組合員はじめ関係機関も加わり実施した。今年度は、斑入りの異形株が確認されたのみで、適切に管理され、健全な生育であった。

農業普及課では、今後、9月初めに収穫期審査を行うとともに、高品質な種子生産に向け今後も支援を継続する。



【抜き穂作業の様子】

(地域支援第二係・今井啓司)

### ■いちご 農業生産法人設立構想発表！

8月9日、JAぎふ糸貫支店において、JAぎふ本巣地域いちご部会糸貫支部生産者大会が開催された。大会の中で支部長から、今後の産地維持、後継者育成、地域活性化に向けて、来年4月にイチゴ生産法人を設立する構想が発表された。

農業普及課からは、「本年のイチゴ栽培に向けて」と題して栽培講習会を実施し、早期の頂花房分化を抑制する重要性や主要病害の診断と対策等について説明を行った。

今後、農業普及課では、関係機関と連携して支部活動を支援するとともに、イチゴ生産法人の来年4月設立に向け支援していく。



【栽培講習会の様子】

(園芸産地支援第一係・菊井裕人)

### ■いちご 宙吊り出荷段ボール採用

8月10日、JAぎふ黒野流通センターにおいて、JAぎふ岐阜市いちご部会が役員会を開催し、平成30年産から、従来の出荷段ボールを、流通過程でいちごが傷みにくい宙吊り段ボールに切り替えることを決定した。

役員会では、4種類の試作品の中から、折りたたみやすさ、強度、価格などを比較し、採用する段ボールを選定した。今回の切り替えは、市場からの要望に応じて実施するものであり、産地評価向上のため、農業普及課も全農、市場担当者と連携を図り、情報提供するなど支援していく。



【役員会の様子】

(園芸産地支援第一係・三和浩一)

## 住みよい農村づくり

### ■だいこん 農業フェスティバル用は種実施

JAぎふ大根部会は、岐阜県庁周辺で開催される岐阜県農業フェスティバルにおいて、毎年だいこんをトラックの荷台から直売し、好評を得ている。

今年も、10月27日、28日に開催される第32回農業フェスティバルに向けて、8月19日に、青壮年部役員とJAぎふ職員が、猛暑にもめげず、だいこんほ場のは種作業を行った。

農業普及課も、「岐阜大根発祥の地」のPRと産地発展に向けて、JA等関係機関と連携しながら、ほ場管理等を支援していく。



【だいこんのは種作業】

(園芸産地支援第一係・高橋幸蔵)